

排尿ケアチームの取り組み

いつまでも、自分らしく
あなたに最適な「自立」の形を、一緒に見つけます



「家に戻れるだろうか」

排泄介助の頻度

在宅復帰を阻む最大の要因の1つ、それは「排泄介助の頻度」

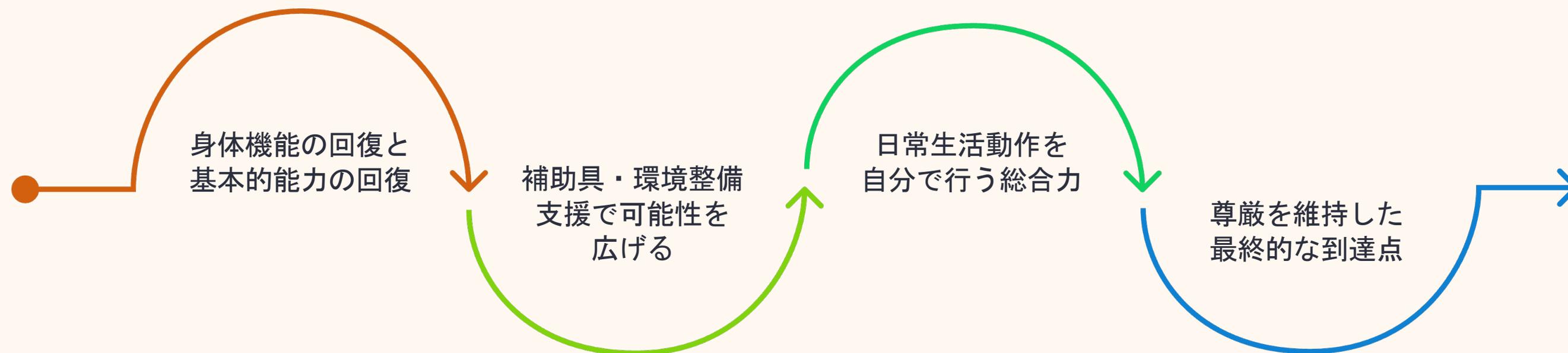
リハビリが進み、歩けるようになっても、最後まで残る大きな壁の1つが「排泄」です。特に排尿は1日に何度も繰り返す動作。もしそこに介助が必要になれば、ご家族の負担は重くなり、自宅での生活を諦めざるを得ないケースも少なくありません。

だからこそ私たちは、あなたの「自分でできる」の最適解を丁寧に見極めます。
無理な理想ではなく、確かな毎日を。
能力を最大限に活かし、在宅生活を維持するための最適解を導き出します。



排尿の「自立」とは何か

自立＝「おむつを使わない」だけではありません。おむつ・パッドを使っている場合、準備・着替え・片付けを自分で行うことができれば、立派な自立です。



1日何度も訪れる排尿の時間を、家族に気兼ねする時間ではなく、自分の力で完結できる時間へ。私たちは、その「自立」に最も真剣に向き合うチームでありたいと考えています。

排尿ケアに専門チームで取り組む数少ない病院

北摂地域でも専門チームで取り組む数少ない病院として、皆様のお役に立てるよう日々取り組んで参ります

私たちの3つのサポート体制

01

専門評価

医学的な検査で「今の能力」を正しく確認します。また、おむつ交換や更衣動作を細分化し、どこに介入すれば「介助」から「自立（自己完結）」へ移行できるかを戦略的に評価します。

02

環境調整

自分でできるよう、補助具や動作を見つけます。機能回復が限界に達したとしても、排尿動作をいかに自己完結させるかという「生活の再建」に重きを置いています。

03

多職種連携

24時間、全員で自立を支えます。医師・看護師・理学療法士・作業療法士・介護福祉士が一体となって、あなたの目標達成を支援します。

排尿ケアチームの成果

当院では実際に排尿ケアチーム活動開始により、尿道留置カテーテル留置期間が大幅に短縮され、在宅復帰へ貢献しています



チーム活動開始前

尿道留置カテーテル留置期間
(1ヶ月延べ)



チーム介入開始後

尿道留置カテーテル留置期間
(1ヶ月延べ)



改善率

チームによる包括的なアプローチ



医師

泌尿器科医とリハビリテーション医が連携
病態の把握と治療計画の立案



看護師

排尿ケア専任看護師と病棟看護師が連携
排尿ケア計画の立案と日常生活の観察と毎日のケア



理学療法士

座る・立つ・歩くなど基本動作の評価と訓練



作業療法士

更衣・トイレの動作の評価と訓練



介護福祉士

実際の介助動作の確認

各専門職が持ち寄る知識と経験を統合し
患者様一人ひとりに最適なケアプランを策定します

週次の多職種カンファレンスで進捗を共有し
柔軟に調整しながら目標達成を目指します



1日何度も訪れる 排尿の時間を 自信に変える

トイレに行くことはもちろん、おむつを使っても、自己導尿であっても、自分で行うことは立派な自立です。あなたに最適な「自立」の形を、一緒に見つけましょう。